



## スーホの白い馬 —モンゴル民話—

大塚勇三 再話

赤羽末吉 画

福音館書店 1967年 1200円

モンゴルに伝わる楽器、馬頭琴の由来を語った民話です。昔、モンゴルの草原にスーホという貧しい羊飼いの少年がいました。スーホは拾った白い子馬を立派に育て上げ、競馬の大会でみごと一等になります。ところが、殿さまはほうびを与えるという約束を破り、力づくで白馬までとりあげてしまいました。白馬は、矢を射られ傷つきながらもスーホのもとに逃げ帰りますが、そこで息絶えます。悲しみにくれるスーホの夢に白馬が現れ、自分の骨や皮や筋や毛を使って楽器を作るよう言いました。そうしてできた馬頭琴は、その美しい音色で聞く人の心を揺り動かし、やがてモンゴルの草原じゅうに広まりました。大判で横長の画面いっぱいに描かれた力強い絵が、広大なモンゴルの大平原と、スーホと白馬の深い愛情を描きだしています。